

黒はわが今生の色秋の風

藤田湘子

湘子には「黒を着て重ねし齡鳥雲に」の句もある。黒が好きな人なのである。

私も黒が大好きで若い頃はいつも全身黒一色だった。たまに明るい色を試着すると、どこかこそばゆい感じとして居心地が悪い。不要のエネルギーは使いたくない。自然な息遣いには黒が一番だった。黒を着ると落ち着くとしか言いようのない安堵感がある。最もそれはある年齢までのこと。湘子がこの句を作ったのは五十八歳の時。まだまだ「黒」が粹な頃である。

湘子の随筆『句帖の余白』を読んでいると、衣食住の嗜好が似ていることに驚く。敬慕する師と似た好みであることは、今更ながら私を幸福な気分にさせてくれる。

1984年（559.08作）第七句集『去來の花』 鑑賞・野本京